

お仕事の【あるある先入観①】

「お仕事ってこうだよね」のよくある
先入観について、まずは考えてみましょう。

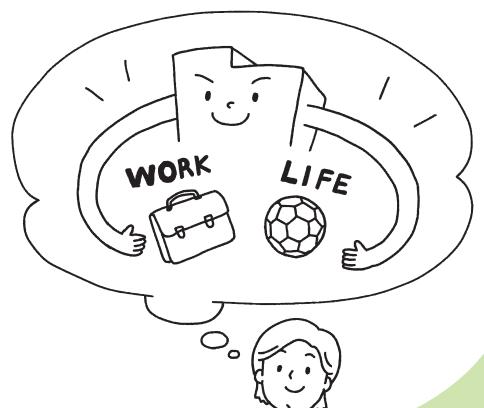


何が“いい仕事”か分からなくなつたので、
ちょっとまとめてみよう。
“いい仕事”的対立構図は、これだ!

社会の
“いいい”

VS

自分の
“いいい”



これからは、
自分の“いい”が主流!?

しかし、「VUCA(ブーカ)変動・不確実・複雑・あいまい)の時代」といわれるよう、企業は生き残りを目指して、「高卒・大卒などの一括採用」や「終身雇用」から、柔軟な人材採用へと変わり始めています。採用される側も、規模や給料などだけにとらわれることなく、自分の生き方に合わせた働き方を重視するようになりました。“いい仕事”とは、社会ではなく、自分の価値観で決める時代が始まっているのです。

社会の“いい”って何?

戦後から高度成長期にかけて日本では、社会の中で“いい仕事はこれ”と語られていたかもしれません。その“いい仕事”的基準は、会社の規模や安定性、給料などでした。何せ、ひとつ的企业に定年まで雇用され続けるという「終身雇用」が普及した時代。高校や大学などを卒業すると、何十年も勤めることができ当たり前でした。だからこそ、倒産しないような規模が大きい安定した企业に勤めることが、“いい仕事”といわれていたのです。

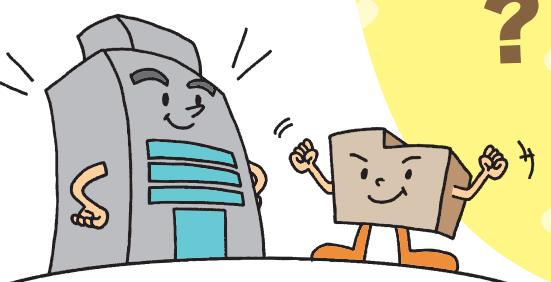


ヒント1

「あの人は“いい仕事”に就いた」なんて、おとなたちが話しているのを聞いたことがあるよね。その“いい”を指しているのは、会社の知名度とか規模とかじゃないかな。でも“いい”って、他人の評価で決めるものなのかなあ。

ヒント3

大きな会社では、多くの人に影響を与える大きな仕事ができることもあるだろう。でも規模が小さな会社でも、他の会社や行政と協同して、大きな仕事につなげている事例は多い。また、多くの人に影響を与えてられなくても、目の前の人喜んでもらえる仕事もあったりする。“いい仕事”って、会社の規模では決められない?



ヒント2

「給料は高い方がいいに決まってる!!」そうかな? ①給料はいいけど、すごく忙しい会社、②給料は①よりもちょっと低いけど、休みがしっかりとする会社—どっちを選ぶ?

